

## 令和3年度香川県行財政改革推進会議における委員からのご意見と対応状況

※会議において事務局から回答済みの意見は除く

委員からの意見	対応状況
<p>一般研修において、ハラスメント防止のための研修が新任グループリーダー以上にしか行われていないように見えるが、ハラスメントは、上司から部下に対するものだけでなく、同僚間や部下から上司に対するものもある。職場における働きやすさの観点からも職階にこだわらず、ハラスメント対策の研修を実施すべきと考える。</p>	<p>令和4年度の各階層別（新規採用職員、主任主事・主任技師昇任者、係長級昇任者、課長補佐級昇任者、グループリーダー任用者、課長級昇任者）の研修において、研修内容に「ハラスメントのない職場づくり」の項目を設けるよう各講師に依頼し、実施した。</p>
<p>ハラスメントについては、部下が上司を無視するケースなどもパワーハラスメントになりうるほか、職場内いじめについても、心理的な負担となったり、職場の士気が低下するなど深刻な問題となりうる。ハラスメントやいじめが起きないように、採用して1年目の人にも周知するよう十分検討いただきたい。</p>	
<p>オンライン研修の内容は、セクシュアルハラスメントに関するものとのことであるが、パワーハラスメントに関する内容も全員を対象にした方がよいと思う。</p>	
<p>昨年12月に第2回デジタル臨時行政調査会が開催されたが、この中で日本のデジタル化の遅れは他のすべての分野に通じる本質的課題である、という指摘があり、国民がデジタルを活用したよりよいサービスを楽しみ、成長を実感できるためには、国を構成する国民、社会、産業、政府、そして自治体、そういった広範囲に跨る本質的構造改革が必要であるという、かなり強い言葉が記載されている。努力だけで終わるのではなく、やはり業務効率化に成果として結びつけることが必要である。デジタル化とDXは異なることを意識しながら、デジタル化により業務量を削減していくために、考えて動いていただきたい。</p>	<p>令和4年度実施計画の「1-4 事務処理の効率化」において、「ICTを活用した事務の効率化の推進」として、AI等の活用や電子決裁、庁内業務のデジタル化、デジタル技術を活用した事務執行の見直し等を記載し、実施した。令和5年度実施計画（案）においても、引き続きAI等の活用や電子決裁、庁内業務のデジタル化、デジタル技術を活用した事務執行の見直しを推進するほか、電子契約システムの導入等を実施することとしている。</p>
<p>最近多くの企業で実施されている「1on1 ミーティング」を研究しているが、今までの面談の仕方は、時代に合わないのではないかと考えられる。上司が部下に一方的に指示をするのではなく、部下主導で面談を行うことも面白い考え方だと思う。</p>	<p>令和4年度に実施した「職員の働きやすい職場づくりに向けたアンケート調査」で、1on1 ミーティングのニーズについて、職員の意見を聞いた。その結果、回答のあった1,847人中、225人から1on1 ミーティングが職員の人材育成、能力開発に有効との回答があった。（9つの選択肢のうち、上位から6番目）</p>

<p>14 ページの災害時の応援協定の拡充に関して、弁護士会は日弁連全体として、各都道府県や市町村に対し、災害に備えて災害支援協定を結んでいくことを計画しており、実際災害が起きたときには、適切に住民の皆さんとの間で法律相談ができるよう派遣することを進めている。災害はいつ起こるか分からないことであるので、県においても地道に進めてもらいたい。弁護士会自体は、各県の弁護士会四県とも支援協定を結んでおり、四国の弁護士連合会自体も、中国弁連や近畿弁連とも支援協定を結んでおり、それぞれの地域で災害が起きたときに、災害に合わなかった地域の人たちがいかに協力できるかというのを進めている状況である。これはおそらく行政でも、同じかと思うので、そういう観点での政策も検討いただきたい。</p>	<p>令和4年度実施計画の「1-3 他団体との連携・協働の推進」において、防災体制や災害発生時における連携として、市町、他県、地域団体、民間等との連携強化を記載し、実施した。令和5年度実施計画（案）においても、引き続き、防災体制や災害発生時における他団体との連携を推進していくこととしている。</p>
<p>15 ページの子育て支援の推進の関係では、おやじ会のような団体も地域の共同参画として役立っているので、その点についても計画の取組みとして配慮いただきたい。</p>	<p>令和4年度実施計画の「1-3 他団体との連携・協働の推進」において、子育て支援の推進における連携として、NPO法人・ボランティア団体等との連携に関する取組みを記載し、実施した。令和5年度実施計画（案）においても、引き続き子育て支援の推進における連携として、NPO法人・ボランティア団体等との連携に関する取組みを実施することとしている。</p>
<p>計画には非常に定性的な記載が多く、この5年間のうち、例えば、今2年目でどれぐらい進んでいて、次年度に向けてどれぐらい進めていくのかという点が見てわかりづらい。取組み事項について、数値で記載できるところは数値で示していただいた方が、我々もコメントしやすく、取り組まれる方々も、現時点の到達点がどのくらいで、今後どれだけの数値を目指さなければいけないといったことがわかるのではないかと思う。見える形での成果を出すためには、あらかじめ、どういう形で見せていくのか数値を使って成果を図っていくことが良い。厳しい言い方をすると、わかりづらいので、できればもう少し数値目標を立てられるところは積極的に目標を記載していただきたい。</p>	<p>令和4年度実施計画において、既存計画により具体的な数値目標が引用できるものについては、現状値と数値目標を追記した。さらに令和5年度実施計画（案）を取りまとめるにあたり、令和4年度に数値目標を追記した項目に加え、新たに数値目標を記載できる項目を追記するとともに、参考数値が記載できるものについては参考数値を追記した。</p>
<p>副議長の御指摘のとおり、この実施計画は、ほとんど数字が書かれていない。確かにそれぞれの中身によってはなかなか数値目標を立てにくいものもあり、そういったものは定性的に書かざるをえないものかと思うが、中には、数値目標を書けるものもあるので、次年度の実施計画を作る際の参考としていただきたい。</p>	